

麦類の種子消毒を徹底しましょう

平成30（2018）年10月

栃木県那須農業振興事務所

近年、二条大麦で「オオムギ斑葉病」の発生が増加しています。本年5月に県内で実施した調査では、発生ほ場率が77.8%と、昨年から大きく増加しました（図1、図2）。本病が発生すると、減収や品質低下が懸念されます。さらに、ほ場からほ場への感染の可能性があることや、種子伝染性病害であることから、大麦の採種ほ場がある地域では特に注意が必要です。健全な麦の種子生産に向けて、種子消毒を必ず実施しましょう。

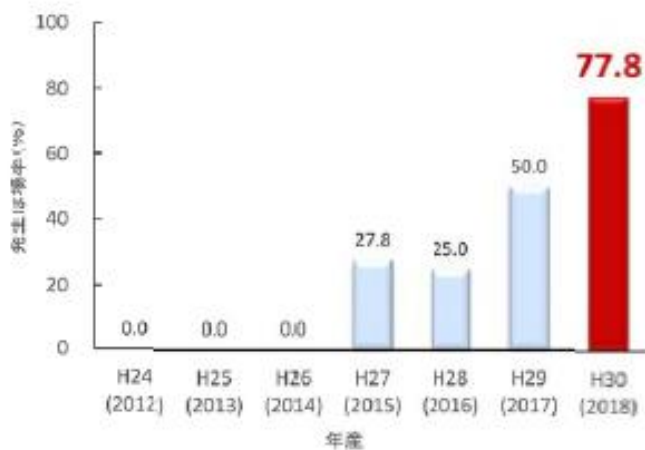


図1 県内におけるオオムギ斑葉病の発生の推移
※5月上旬調査、二条大麦（調査ほ場数：16～18）



図2 県内におけるオオムギ斑葉病の発生状況
※平成30(2018)年5月上旬調査、二条大麦（調査ほ場数：18）

種子消毒

(引用：栃木県農業環境指導センター 植物防疫ニュース 速報 NO.8)

表1 麦類種子消毒剤の主な適用一覧(平成30年9月12日現在)

農薬名	病害名				使用方法	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分	成分の総使用回数
	条斑病	斑葉病	黒穂病	なまぐさ裸黒穂病						
ペフラン液剤25(劇)			①		10～30分間種子浸漬	1000～2000倍	播種前	1回	イミノクタジン酢酸塩	*1
			②		10～30分間種子浸漬	1000～2000倍	播種前	1回	イミノクタジン酢酸塩	*2
		②			10～30分間種子浸漬	250～500倍	播種前	1回	イミノクタジン酢酸塩	*2
ベンレートTコート	○	○	○	○	種子粉衣	乾燥種子重量の0.5%	播種前	1回	1. チウラム 2. ベノミル	1. 1回 2. 1回

①：小麦、②：麦類(小麦を除く)

【*1】<小麦>4回以内(種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は1回以内)

【*2】<麦類(小麦を除く)>3回以内(種子への処理は1回以内、散布は2回以内)

※オオムギ斑葉病に対する種子消毒の効果は、処理方法により異なり、一般的に浸漬処理>湿粉衣処理>乾粉衣処理の順で効果が高いとされている。